

第33回

ナブルス/パレスチナ

Nablus Palestine

キリスト教の最初の異郷

リクルート=スタディサプリ講師 村山秀太郎

笑顔で写真に

1996年3月。私は友人と2人ベン・グリオン空港でレンタカーを調達し、エルサレムで数日過ごした後、ヨルダン川西岸地区を北へ向けドライブした。現在のパレスチナ自治政府の事実上の首都ラマラを経てナブルスで1泊した。1967年の第三次中東戦争でイスラエルが占領した地域のうち、ガザ地区とヨルダン川西岸地区の街エリコからのイスラエル軍の撤退が決まった「オスロ合意」の3年後が1996年だった。すでにナブルスからも撤退は始まっていて、治安を維持するのはパレスチナ人兵士のみ。唯一イスラエル兵を見かけたのは、ヘブライ(ユダヤ)人の族長ヤコブの息子ヨセフの墓の警備兵だけだった。ホテルのパレスチナ人従業者の1人にガイドを頼んで訪れ、見学後に「4人一緒の記念撮影を」と言ったら、彼は恐れ困惑し、イスラエル兵士は憚然とした。それでも空気の読み方を知らない私の無垢な強引さがそれらを凌駕したのか笑顔で写真に収まった。



パレスチナ人ガイドとイスラエル兵士と共に記念写真(ナブルス・族長ヤコブの子「ヨセフの墓」の前で)

対立、妨害、偽りの告発

ナブルスはヘブライ語聖書つまり『旧約聖書』にはシェケムとして登場する。エルサレムの「嘆きの壁」は、後にローマ皇帝になるティトゥス將軍による



70年の占領の名残であるが、シェケムは72年に彼によりフラウィア・ネアポリスと改称され、これが「ナブルス」の起源となった。

「サマリア人」は、元来はアッシリア帝国に征服される前の北王国に住んでいた人々を指していた。ここで言う“北王国”とは、今から約3千年前に、初代がサウル、次いでダビデとその子ソロモンと続いたヘブライ王国が南北に分裂した後の北のイスラエル王国のことで、その首都がサマリアだった。北王国の首都サマリアと南のユダ王国の首都であったエルサレムの間の敵がい心は、時おり真っ向からのぶつかり合いになった。『旧約聖書』の『歴代誌』の記述によると、アッシリア帝国はイスラエル人の住民を全て強制移住させたわけではない。やがて「サマリア人」と言った場合に、サマリア(ナブルスの北西11キロに遺跡がある)に残された人々やアッシリア人によって連れて来られた人々の子孫を意味するようになった。だから、サマリア人の中には異民